

⑨ 日本国特許庁 (JP) ⑪実用新案出願公開  
⑩ 公開実用新案公報 (U) 昭60—15968

⑤Int. Cl.  
F 02 M 61/18  
51/06

識別記号 庁内整理番号  
8311—3G  
8311—3G

③公開 昭和60年(1985)2月2日

審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑥電磁式燃料噴射弁

②実願 昭58—107271  
②出願 昭58(1983)7月12日

⑦考案者 莊山憲治  
岩手県岩手郡滝沢村大字滝沢第  
八地割字外山309番地東北三國  
工業株式会社内

⑦考案者 岡田成男  
岩手県岩手郡滝沢村大字滝沢第  
八地割字外山309番地東北三國  
工業株式会社内

⑦考案者 宇都木伸二  
岩手県岩手郡滝沢村大字滝沢第  
八地割字外山309番地東北三國  
工業株式会社内

⑦考案者 上野幸男  
岩手県岩手郡滝沢村大字滝沢第  
八地割字外山309番地東北三國  
工業株式会社内

⑦出願人 東北三國工業株式会社  
岩手県岩手郡滝沢村大字滝沢第  
八地割字外山309番地

④代理人 弁理士 篠原泰司

⑤実用新案登録請求の範囲

(1) 電磁吸引力と閉弁方向に作用するバネ力との相互作用によつてボール弁を反覆開閉させるようにした電磁式燃料噴射弁において、バルブシート部の下流に、バルブシート部と同心である同一円周上に配設された複数の貫通孔と該貫通孔から上流に向つて円周方向に斜めに拡大するようにプレス成形された切欠部とから成る旋回導入溝を備えた旋回板と、該旋回板の各旋回導入溝を包含する大きさの一つの圧力室として役立つ円穴を中心とする圧力板と、燃料流量を計量し且つ燃料を微粒化して噴霧せしめる該旋回板の各旋回導入溝の断面積の和より小さい断面積のオリフィスを中心に備えたオリフィス板とが順に重ねて配設されており、上記旋回板、圧力板及びオリフィス板が各々薄板として構成されていることを特徴とする、電磁式燃料噴射弁。

(2) 旋回板、圧力板及びオリフィス板が各々0.4mm以下の板厚であることを特徴とする、実用

新案登録請求の範囲1に記載の電磁式燃料噴射弁。

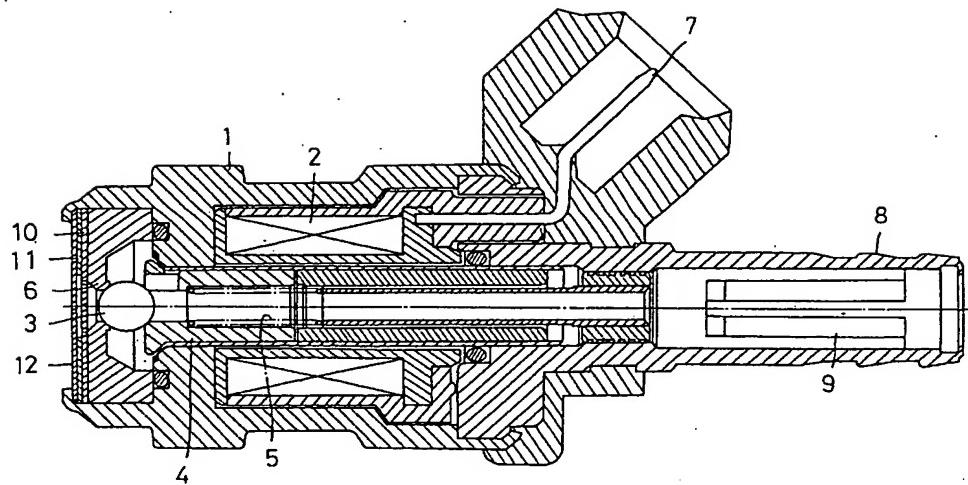
(3) 旋回板の旋回導入溝の貫通孔がその切欠部のプレス成形と同時に該切欠部と一体的にプレス成形されていることを特徴とする、実用新案登録請求の範囲1または2に記載の電磁式燃料噴射弁。

図面の簡単な説明

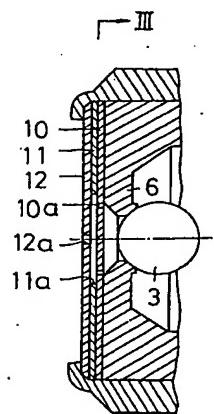
第1図は本考案による電磁式燃料噴射弁の一実施例の断面図、第2図は第1図の部分拡大図、第3図は第2図のⅢ—Ⅲ線に沿う部分拡大断面図、第4図は第3図のⅣ—Ⅳ線拡大断面図、第5図は旋回導入溝の成形方法を示す説明図である。

1 ……ケース、2 ……コイル、3 ……ボール、  
4 ……プランジャー、5 ……バネ、6 ……バルブシート部、7 ……端子、8 ……燃料入口、9 ……フィルター、10 ……旋回板、10a ……旋回導入溝、11 ……圧力板、11a ……円穴、12 ……オリフィス板、12a ……オリフィス、13、14 ……押圧部材。

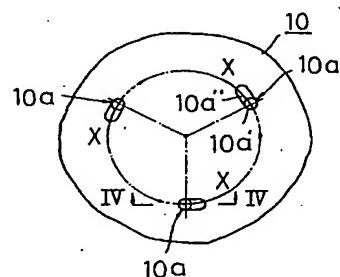
第1図



第2図



第3図



第5図

L-III

(A)

(B)

第4図

